

二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	八
日	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
鳥羽 究	鳥羽 究	鳥羽 着			鳥羽 究			鳥羽 究		鳥羽 究		鳥羽 着
横須賀 向					沿岸 測			測量地 向		水門 敷設 工事 打合		

0783

備考 天健其 他ノ都 合ヨリ豫 定ヲ變更 スル事ナ シ	三	巳	二	二	二	二	二	二	二	二	二
	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
						横須賀 建論					横須賀 着

海軍

(終)

0724

二九動

軍部即三別ニ奉ル

八月十一日
海軍省接受

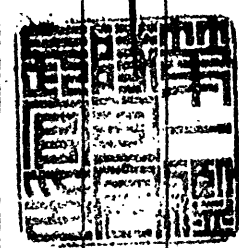
3.8.12
艦政一部

第一機密第一四七號

大正三年八月十日於橫濱賀軍港旗艦金剛

第一艦隊司令長官加藤友三郎

海軍次官鈴木貫太郎殿



行動及作業ニ関スル件

當隊行動及作業ニ関シ別發通發令致候條

為御参考

右送付

第一艦隊日令第三九號

會計課

人事局

艦政本部

軍務局

供覽

Vertical columns of text and numerous circular and square seal impressions, including names like 秋山, 藤原, 東島, and 加藤.

大臣 庚

海

軍



第一艦隊日令第三九號

大正三年八月九日
海軍大臣 賀軍港 旗艦 金剛

加藤第一艦隊司令長官

一 金剛 攝津 薩摩ハ別表ニ依リ裝藥ヲ搭載ス

二 薩摩 攝津ハ司令官指揮ノ下ニ十一日出港ニ至

三 到リ可成速力ニ裝藥及軍需品補充ヲナシ整

四 備セハ直チニ各艦單獨佐世保ニ回航スヘシ

五 筑波ハ九日出港 佐世保ニ回航シ別紙訓令ニ基キ

六 行動スヘシ

七 四周防石見ハ何分ノ令アルマテ當地ニ在リテ諸訓

八 練ニ從事スヘシ

九 本職ハ金剛ヲ率テ十六日當港發佐世保ニ向ス

十 當隊夜間軍艦戰闘射撃ハ當分ノ延期ス

（終）



(別表)

薩 摩	攝 津	金 剛	艦 名
吳	横 須 賀	吳	横 須 賀
三分 一	三分 一	三分 一	三分 一
十八日	十日	十四日	十五日
迄	迄	迄	迄
迄			

新々搭載之重量

装薬完成日時

(終)

0727

寫

(別紙)

第一艦隊機密第三九號ノ二

筑波艦長訓令

大正三年八月九日
筑波艦長訓令

其、艦ハ佐世保到着後ハ第二艦隊司令長官

ノ指揮ヲ受テ行動スル

第一艦隊司令長官加藤友三郎

0728

供覽

政送第一七〇號

大正三年八月十一日

外務大臣男爵加藤高明

海軍大臣八代六郎敬

第三艦隊司令官、來港ノ件

本件ノ要旨、別紙字ノ通リ在仙頭
河西領事代理ヲ通報スルノ旨
為ニ考テ、右ノ旨、及リ、是ノ旨、乃兩重
別紙字ノ通リ申述スル也

第四班
第一班



海軍省受

別紙添付

八月十二日

0729

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

久
秀
山

0730

寫

公 第 八 三 號

大正三年七月二十八日

在汕頭

領事代理副領事河西信

外務大臣男爵加藤高明 敬

第三艦隊司令官、來港

第三艦隊司令官土屋少將、其旗艦

對馬、座敷去廿六日早朝馬公より來

港当地方、視察了了、今廿八日午

七時厦門、向々出港相成、同艦ハ

汕頭、終止、厦門福州、往

海軍省
文書課
第 八 三 號

0731

上海帰港スル豫定ナリシカ福那ハ悪疫
流行ノ為メ同港寄港ヲ中止シタル由有
之也

右ノ具報ヲ候致具

0732

力勤

八月廿六日

軍務局

艦政本部

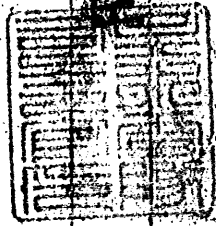
機務部

軍令部

吳水雷隊第一二〇號

大正三年八月十五日

吳水雷隊司令官心得森義良



海軍大臣八代六郎殿

局

驅逐艦修理完成件

驅逐艦修理ノ為メ佐世保軍港ニ面航中

本日吳ニ向ケ今軍港出發致候

第一班

第一班

第一班

第一班

第一班

第一班

第一班

機務長

參謀長

松橋

田中

參謀

田中

田中

田中

田中

田中

田中

田中

海軍

0733T

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

八月九日

軍務局

艦政本部

参謀長

機関長

参謀

副官

四

機関長

吳水雷隊第一二〇號

大正三年八月十八日

吳水雷隊司令官心得森義

海軍大臣八代六郎殿

局員

驅逐艦修理完成ノ件

第七駆逐隊艦修理ノ為ニ佐世保軍港ニ回航中ニ
右修理完成ニ付本日同軍港出發明十九日帰吳ノ
豫定ニ有之候

第四駆逐隊
第三駆逐隊
會計課

衆

九

終

海軍

0734

22

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

供覽



事務局長



馬員



海

軍

大正三年八月五日

池田事務局長

林山事務局長

岩倉集

事務局長、行動を果すに先悉く申付物事、
福光の字に於て八月廿五日付申付物事、
件を以て申付物事、此の如く又の如く、
知照せしめ申付物事、此の如く又の如く、

大田官房受

八月十日

海軍

廿六

(花崎納)

0735

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

海軍

第三艦隊機密第八四號ノ四

大正三年八月八日

駐上海艦隊司令官

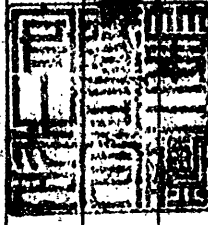
軍務局

土屋第三艦隊司令官

秋山

秋山海軍省軍務局長殿

備



供覽

軍艦宇治香港碇泊中ノ行動ニ關スル件

軍務機密第一五九號ヲ以テ御照會相成候軍艦

宇治香港碇泊中ノ行動ニ關シ江副宇治艦

艦ノ報告別紙ノ通

右送付ス

別紙三葉添

終

機密第一五九號ノ五

軍艦宇治伶仃島附近砲泊中ノ行動ニ關スル報告

大正三年七月中本艦射撃訓練ヲ施行セントシ其施行場ヲ
伶仃島附近ヲ適當ト認メ水路誌東洋沿岸紀要其他
ノ調査ヲ行ヒシニ支那領海ニテ確認シ赤塚廣東總領事
ト相談ノ上總領事ヨリ廣東都督ニ通告セシニ該都督ヨリ
伶仃島附近ニ於テ射撃シ差支ナキ旨回答ヲ得テ依テ五月
廿四日出動「ハウホイ」灣黒角ト南西南トノ連絡線上ニ砲泊
シ晝夜射撃ヲ施行セリ

翌廿五日午後十時頃英國水上警査署員一名本艦ニ來リ何船
カ何時迄砲泊スルヤトノ問ヲ發セシノミニテ去レリ

然ルニ同月廿七日香港入港際令弁香港總領事ヲ訪問シ同館
ニ有スル地圖ヲ見タリニ英租借地内ナリシヲ以テ歸艦後直ニ

知事
元二二
元二二

士官一名ヲ旗艦「テーマ」ニ派シ該件ニ早謝セシメ且ツ今并總領事ニハ右ノ次第ヲ述ベ英司令官ニ其旨通ル様依頼シ落着ヲ告ケタリ

該件ニ関シ今并總領事ヨリ書状寫參考ノ為メ添付ス

(終)

海軍

0737

寫

號外

大正三年七月二日

左香港

今井總領事

左廣東

江副宇治艦長殿

拜啓陳者先般貴官より御道面談有之候貴艦
 冷下島附近英國領海内於テ射擊練習ノ件ニ
 関シ本日「コンモトア」ヲ訪問シ同島附近「廣東鎮
 海」ト稱スル都督ノ許可ヲ經テ練習セルモ今迄テ英

外務部
送交

0738

食言ノ
嫌アリ

國領海ナリシハ業知シ居ナリシヨリ起リテ結果
ナク旨懇々説明シ且ツ本問題ニ右説明ニテ解
決トセラレ度キ旨懇々談シタルニ先方モ其意ヲ諒シ
右國ニ今後何等ノステップヲ執ラザル旨確答ニ
接シ候旨右様御了知相成度右御報告中進
候也

是而中伴國レ小官ヲ何等外務省へ報告致
サス候間右御含置相成度此段申添也

0739

軍艦宇治香港碇泊中行動ニ関スル報告

本艦上海回航ノ命ヲ承ケ面航ノ途次香港碇泊中七月七日當直將
校海軍大尉萩原榮七八九龍ノ「タイフンシカ」ト暴風來襲ノ
諸兆候トニ徴シ汽艇ヲ本艦尾ニ繫留スルノ危険ナルヲ認メ同日午
後九時頃比較的英語ヲ解スル水兵ヲ乗艇セシメ汽艇ヲ築港内
繫留中ノ旗艦「テーマ」附近ニ避難スヘキヲ命ゼリ 斯クテ汽艇
ハ繫留池ニ到リ投錨用意ヲナシツ、テーマスニ近キレニ「テーマ」ノ
番兵ニ「^{難有}」セラレシヲ以テ「^{難有}」ハ「^{難有}」ス、カンボート、ウチト答エシニ番
兵ハ何處ヘカ行キ (多分直將校ニ届ケタラス) 斯時ニテ出テ来リ手
真似テ池外ニ出ツベキコトヲ要求セルヲ以テ遂ニ引キ退セリ依テ不得
已汽艇ハ引揚準備ヲナシ居リシモ幸ニシテ當夜ハ「タイフン」ニ来
襲ナク無事ナルヲ得タリ

0740

當時小官上陸不立翌八日帰艦シテ此ノ報告ヲ得直ニ士官一名ヲ
 一マシニ派シ前夜ノ粗忽ヲ謝シ併セテ今夜入港避難スル場合ニ
 之ヲ許可證ヲ貰ハシメ置キ同日夜ハ避難セシメタリ

同日香港今井總領事ヨリ小官ニ來館ヲ求メタリ以テ小官ハ該領事
 ニ會見シ事情ヲ話シタル後共ニ英國司令官ヲ訪問シ談笑裡ニ落着
 ヲ告ケタル次第ナリ

(終)

0741

供覽



機密第一 九〇九號

軍務局長



局員



當

藤田



大正三年

八月

軍務局長

第三巡査員 友丸

本年巡査員 香甚 巡査員 中ノ 巡査員 森之 巡
査員 付 紙ノ 用 外 務 者 司 稿 添 者 之 付
及 出 付 紙 者 事 務 司 事 務 司 事 務 司 事 務 司
巡 査 員 高 野 事 務 司 事 務 司 事 務 司 事 務 司
巡 査 員 高 野 事 務 司 事 務 司 事 務 司 事 務 司
巡 査 員 高 野 事 務 司 事 務 司 事 務 司 事 務 司

(紙田 友丸)

紙田 友丸 巡査員 友丸

0742

拜 尉 陸 軍 艦
宇 治 行 動 了 了
了 取 立 書 浩 々 井

三七三七代開封


0743

櫻錦重々 別紙

宮了園了 櫻錦重々

法美之老道了 何はゆゑ

多子卯辰

了了了了

小池清造

秋山少将殿

寫秘

揚子江二三号

大正三年七月九日

在香港

總領事 今井忍郎

外務大臣 岡野清 地 縣 高 的 殿

軍艦 宇江ノ 行動 身 美 心 海 軍 友

憲 兵 隊 的 要 求 件

軍艦 宇江ノ 上海 停 任ノ 途 次 着 陸 碇 泊 中

本 月 七 日 夕 後 九 時 許 五 分 美 心 海 軍 用 小 舟

渠 (Naval Camble) 二 其 小 蓋 汽 力 容 七 該 舟

渠ノ 中 部 二 船 付 留 了 居 此 由 九 力 美 心 軍 艦 行

0745

コーラー 鷹の 高聲ヲ 擲ケ 用向ア スハッテ マー 附近ニ
 来ク之ヲ 認メ 不可レト 告ケタリ 此河等ノ 答ハク 最後ニ
 右小島迄ハ 舟渠外ニ 去リ 此ノ 異例ノ 行動ニ 對シ
 宇治船長ノ 説ハ 傳ハルキ 方 善ム 必大 所司 全友
 (Commodore) 別紙 高ノ 信ヲ 存及ニ 送付 以
 来、友 高ノ コムモドルハ 附記シテ 余ハ 喜ビテ 尚 陸ヲ
 日、軍 艦ノ 所用ニ 供スルモノニ 及ビ 軍 艦 宇治ニシテ
 而 夜、タイフーン 暴 標ア 此カ 力ヲ ナシ 兼 流ヲ 海軍 用ノ
 舟渠ニ 容ルルノ 希 留アラハ 果シ 知方ノ 執事 例ニ 由リ
 許可 有 傳ハ 示セ 示レ 以テ 軍 艦ノ 為メ 善ム 相 應ノ 配
 置ヲ 為ス 不可キ 若キ 事ハ 申 候イ
 右ニ 付 本友ハ 不 取 取 別 艦 長ノ 来 報ヲ 承メ 專
 曲ヲ 了 聞シ 此レニ 為 夜、 艦 長 上 陸 不 可キ 事ハ 此カ 由 矣

0746

船ノ標アリニカノ高直ノ將校ノ持圖ニテ港内(一ノ)
 遊新所ト認メタル可キ海軍用ノ舟渠ニシテ其底ヲ
 容レタルカ高時テ一マノヨリ高ク声ニテ行ヒテアリシ事ハ
 承知シ居リシモ其但リ言傳不達ヲ為メ僅ニ其
 似テテモシカ高直ノ遊新ノ定思ヲ通スルヲ得ズ修ニ右
 間違ヲ引起セシ方判明ニタルカ艦長ハ前記「モモトル
 ノ友友」ヨリ信ニ對シ士友ヲ派シ其ハ海軍ニ直接
 説明セシム可ト申出ナリシモ本友ハ艦長自ラ友友ト
 同行シ善心傳ニ送ルルヲ勸ム「モモトル」ニ
 有テ前記ノ所見委曲説明シ談笑神ニ相伴リ
 倦了シ「モモトル」ノ友友別ニ返テ友友セサルヲ
 之兩極ノ事ナリ
 本件ニ関シ本友カ持ニテモモトル手取ラ所シテ其地、

理由より即ち客日ニ于セリ字ハ艦長未だ
 當時ノ談話ニ由リ艦ハ赤塚總領事ノ照會ニ
 由リ東京都務ノ通牒ヲ領シ自サ四五兩夜伶仃
 島 (King King Island) 附近ニ在リ射撃演習
 中 美兵小笠原接連ニ以艦ノ命ナリトテ軍艦所屬
 國ヲ支訊シ先報分本及ニ其射撃演習地ニ
 更ニ地圖ニ就テ詳細寸寸訊シタルニ即白ニ美兵租借
 地領海内ナラシテ先手ナリ以式振儀ノ東ラサレハ
 本及自云云モルレヲ訪ヒ地理ノ未熟アリ東ニ理由
 ヲ述ハシテ解決シタル事ナリトテ又ノ七年本軍ヲ距僅ニ
 二週有ミテ一軍艦ガ又ニ美兵側ノ感情ヲ害スル
 カル事ハ後令其ノ中柄ハモ其ノ而白カララズトテ先ノ物ニ
 前通説ノ手段ヲ擇ビ見義スルモノナリ

本件ニ言シテ海軍官憲ノ小過失ヲ指摘シ其被
スルカ如キハ亦甚ク極メテ不快トスルヤムニ及ビ其被シ方
躊躇ハシ多量兵已ニ善小友憲例ノ公文思合モ
方々且ツ本件ハ今後多ク同類ノ事ニ復ス可キ事ナリ
メ不取敢テ報知申進メテ若シ容下ニ在リ之ヲ海軍
大臣ニ通牒シ俾テ其ノ過失ヲ成スルヲ可成
而シテ其方ハ他業中ニ於テ其方

0749

C O P Y

Commodore's Office, Hongkong.

8 July 1914.

Sir,

I have the honour to inform you that the Steam Cutter of H.I.J.M.'s Ship "UJI" entered the Naval Camber at 9.35. p.m. last night, 7 July 1914, and remained in the middle of the basin for some time. Although hailed repeatedly and told to come alongside the "TAMAR" to state what was wanted no reply was vouchsafed and the steamboat ultimately turned and steamed out of the camber.

I should be very glad if you will be good enough to obtain an explanation of this unusual occurrence from the Commanding Officer of the "UJI",

2. I am only too glad to place the courtesies of the port at the disposal of H.I.J. Majesty's Navy and if it were desired to place the boat in the camber for the night owing to Black Typhoon Signals being up I should have been glad to arrange for this if permission had been asked in the usual manner.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient servant,

(signed R. H. Anstruther)

COMMODORE.

His Imperial Japanese Majesty's
CONSUL-GENERAL.
Hong Kong.

0750

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

海軍省後軍務局

供覽

一軍務局

經理局長

經理局長



大正三年九月九日

四四二 一二四

海軍大臣八代六郎殿

吳鎮守府司令長官 吉松茂太郎

軍艦駒橋及第八號第九號潜水艇行動件
下九月旬當軍港ヲ發シ横須賀
回航シ當分同地及附近ニ在リテ訓練
從右報書

行動豫定ハ追テ提出可致候

(報告先海軍大臣軍令部長)

海軍

九月十日
海軍省後軍務局

0751

打就

供覽

軍務局

軍令部

吳鎮守府 四四二號

大正三年九月十四日

吳鎮守府司令長官 吉松茂太郎

海軍大臣八代六郎一様

司員

駒橋の潜水艇回航一件

駒橋の第八第九潜水艇の回航一件
り明十五の當早流出若横須賀早港
二回航一豫定之と為条

云報先ス

了

九月十八日
海軍省接受

海軍

0752

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

駒橋立=第入第九潜水艇横須賀=田航航跡定表

日	時	変針位置	針跡航程	備考	
第一日	7-0 A.M.		V a. e.	1.8 里 吳港	
	7-15	小麗女島ヲ	V 62 E. 3 里	V 14 W 4.	
	7-42	屋形石ヲ	S 78 W. 6	V 80 W 1	
	7-48	屋形石ヲ	S 50 E. 5	S 64 W 1	
	8-05	外方鼻ヲ	V 73 W. 5.5	S 84 W 1.1	大須津子
	9-13	鼻ガツヲ	S 78 E. 3.5	S 68 W 3.8	那沙淡子 島
	9-39	亭頭鼻ヲ	S 64 E. 5	S 22 E 1.5	
	9-42	亭頭鼻ヲ	V 45 E. 4	S 12 W 4.6	
	10-09	白石ヲ	V 68 W. 4	S 78 E 7.	
	10-56	西五番礁ヲ	S 28 E. 1.	S 73 E 4.	黒島水道
	11-22	入道鼻ヲ	V 70 E 1.3	S 4 W 2.	

		海		河	
11-35	羽島ヲ	N55E .7	E	1.6	
11-45	鹿島東端ヲ	N2W 2.	N66E	13.2	
1-14 PM	有島ヲ	S22E 1.3	N83E	8.1	
2-08	大隅鼻ヲ	S8E 1.3	var.	6.5	親水道至
2-55	地藏鼻ヲ	N10W 1.2	N60E	14.	
4-29	新神島北端ヲ	S29E 1	N78E	15.	
6-09	大堰東端ヲ	N12W 1.4	N68E	5.2	
6-42	小島ヲ	N6E .7	var.	10.5	塩飽津下至
7-52	鉛島燈台ヲ	N75W .7	N73E	4.8	
8-25	大榎島ヲ	N18W .65	N82E	4.3	
8-52	柏島ヲ	N8W .8	N62E	2.5	
9-09	野木島燈台ヲ	S19E .8	S74E	6.7	
9-52	高島ヲ	S22W 1.8	S58E	2.9	

0754

0755

10-12	10-12	地藏曇	N14W .8	E	5.1	
	10-45	大角曇	N	1.5	N74E	35.
第二日	2-3 ⁹	A.M. 江崎燈光	S30W 1.3	Var.	3.5	明浜子通
	3-01	平磯燈光	N14E 1.7	S16W	19.2	
	5-14	友ヶ島燈光	N7.5E 1	S2W	24.2	友ヶ島水道
	7-55	日御崎	Sff E 2.5	S36E	29.3	
	11-15	安宅崎	N55E 4.5	S62E	18.2	
	1-19	PM 榎野崎	N30E 8.	N70E	174.5	
第三日	8-52	AM 神子元島	S30E 3.5	N45E	26.3	
	11-50	仙人曇	N45W 6.5	N54E	24.8	
	2-40	PM 鉢崎	N36W 2.	Var.	18.	
	4-30					横須賀入港
					合計	

5/6.1

(備考) 一. 原速カ九第

二. 本表ハ風潮ノ影響ヲ兼入セス

0756

加動

伊覽
自

軍務局

軍令

源

第二班

一八〇號ノ二

大正三年十月二十二日

海軍大臣八代六郎殿

馬公要港警備司令部

馬公要港司令部印

高員 麾下驅逐隊警備報告ノ件

別紙寫、痛、第十驅逐隊、台灣西岸南部
警備、航中、地方官憲、要求ニ應ヒ、蕃人、刻
伐隊ニ、援助ヲ、與ヘ、候ニ付

右報告ス

非

(魚)

海軍 馬公要港警備司令部

0757



十驅機密第一三六號

大正三年十月二十日 於馬公

第十驅逐隊司令心得橫地 錠二

馬公要港部司令官 齋屋忠通 發

巡航報告

(自大正三年十月十四日 至十月十九日)

臺灣西岸南部警戒巡航、命ヲ受ケタル本隊ハ十月十四日午前八時馬公出港午後五時枋寮着枋寮支廳長及ヒ桐港區長ニ并蓄情ヲ取調海上ヨリ應接必要、有無交渉ニ對シ夜間探照燈ノ真燈ハ蓄人ノ最モ驚怖スルトコロニシテ有効ナル威脅ナリトノコトニテ真燈ノ請求アリタラシテ之ニ應ジ今月十八日迄枋寮大板橋間沿岸ヲ晝夜巡航討伐隊

二應援全月十九日午後三時馬公帰港
右報告ス

清
軍

0759

七
動

秘

供覽

軍務局

人事局

艦政本部



吳鎮機第四四之號 二〇八

大正三年十一月十一日

吳鎮守府司令長官代理

海軍中將野向口兼雄

海軍大臣八代六郎

韓崎、駒橋及第二潜水艇隊

行動ノ件

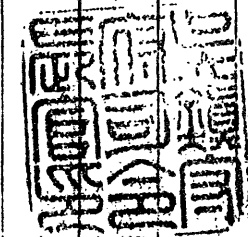
右三關ノ訓令ニ刻令ニ依テ

右部ノ訓令ニ依テ

第三部

第四部

第五部



海軍

四
11-19

3.11.16
海軍省
11-19

大正三年
十一月十一日

0760

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

秘
寫

吳鎮機密第四四五號ノ二〇七

松岡吳防備隊司令ニ訓令

大正三年
十月十日

一 韓崎、駒橋及第二潜水艇隊ハ當分ノ間
第一艦隊司令長官ノ區處ヲ兼テ訓練ニ
從事セシムヘシ

二 韓崎及第十、第十一、第十二、第十三潜水艇
ハ豫定ノ通潜水艇入渠後準備ヲ整正ヘ
第一艦隊所在地ニ回航セシムヘシ
行動ヲ豫定セハ報告セシムヘシ

吳鎮守府司令長官代理

海軍中將野間口兼雄

0761

子如
中
上

供
濟

龍

軍第四二一號

軍務局長 (藤田) 局員 (藤田)

大正三年十二月五日

軍務局長

藤田

海
大臣官房受
吉岡十郎

依前件、軍務局長に呈請あり。三官署、三上申出あり。此
中五起の係出部と案、三件
依前件、軍務局長に呈請あり。三官署、三上申出あり。此
中五起の係出部と案、三件
依前件、軍務局長に呈請あり。三官署、三上申出あり。此
中五起の係出部と案、三件
依前件、軍務局長に呈請あり。三官署、三上申出あり。此
中五起の係出部と案、三件

(32)

大南

(花崎)

0762

軍務局

本件上申
接台所
より係
出動
本号申
進

二〇三四、三

大正三年 十一月 十一日

吳鎮守府司令長官 吉松茂太郎

海軍大臣 八代六郎 殿

第二豫備駆逐艦出航ノ件

第五駆逐隊左記理由ニ依リ出動ノ件持々

御認許相成度

当流ヨリ神ノ帰港ス
軍艦積名ヲ為メ
兵多樹生徒ヲ為メ
御召艦護衛ノ為メ

本月中旬ニ於テ約三日間
一日

右 上 申 入

官房第三六七六號

海軍

終

0763

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

紙 罪 案 起

大正三年十二月十三日

日起案 起案者 捺印

(捺印)

十二月十三日發付

發付係 捺印

發付後起 案者捺印

(主務)

軍務局長

局員

購印

官房

局部

受月日 十二月十日

發月日

大臣

次官

參事官

副官

事務

人事

軍務

官房

事務

經理局長

局員

事務

事務

事務

經理

事務

警政部長

會計課

事務

事務

事務

司法

事務

事務

次長

事務

第一班

事務

事務

事務

事務

水陸

事務

事務

大正三年十二月十三日

午後...

次官

殿下... 及... 國...

號番

五張子行書の長文を以て

現に吳郡ノ紀述ハ第一節ニ歸シテ紀述ノ第一ノ事ナリ故
其初ノ為ナリ然レドモ其後ノ紀述ハ第二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第二十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第三十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第四十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第五十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第六十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第七十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第八十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十一ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十二ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十三ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十四ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十五ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十六ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十七ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十八ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第九十九ノ事ナリ故
其後ノ紀述ハ第一百ノ事ナリ故

0764-2

供覽

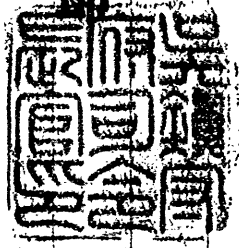
軍務局

吳鎮第一〇〇七號三

大正三年十二月九日

吳鎮守府司令長官

吉松茂太郎



海軍大臣 八代 陸軍大臣 陸軍大臣

十一月五日 官房第三三九五號 第六御訓令 依

傳恭王殿下御召艦ヲ軍艦富士ニ護衛隊ヲ

第五駆逐隊ニ指定候條

右報告ス

局員



海軍

0765

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

(電報譯用紙)

軍務局

司員

田原

藤田

海

軍

8

12

10

大正三年十二月十日午

時時

分分

局局

著發

受信者 軍務局長

發信者

口島鎮守隊長

己未
亥
↑

昨九日發送ノ口島鎮守隊第六九号ノ一件取

消ス

標名未十五日に出発シテ十六日神戸ニ向ケ出航第

五駆逐隊ヲシテ護衛セシムル際定ニ是ニシテ

花

0766

電 報 着 信 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取 扱 者	受 信	付 受 午 後 前	付 受 午 後 前	第 一 八	局		官 報
	午 前 後	時 分	時 分	日	號	號	
定 指						番 着 信 號	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> ノハエキニ五サ</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> シナコトルクス</div>						數 紙	名氏所居人信受
						事 記	第 五 號
印 附 日 信 着							

0767

五龍の浦

二喜の里

トノ

トノ

事件

式帳

取寄

手紙

第四〇

呉鎮

六支

一〇

大正三年十一月九日

井出呉鎮守府参謀長

秋山海軍省事務局長

司

田

藤田

印



榛名神六回

榛名川来儿十七日

こころ十八日

田記、近ヒト

例ニ依リ

海軍省、文来儿十九日

8. 12. 1 R

0768

式名之五 馳馬廻隊の儀 凡そ
 士、護衛之者 是より之身 本所
 他に 棒名護衛之者 是より之身 本所
 馳馬廻隊之者 是より之身 本所
 六 田祝之身 護衛之者 是より之身 本所
 於子之身 一 馳馬廻隊之者 是より之身 本所
 之 是より之身 一 馳馬廻隊之者 是より之身 本所
 好 是より之身 一 馳馬廻隊之者 是より之身 本所
 好 是より之身 一 馳馬廻隊之者 是より之身 本所

演

算

了

0769

地名	航程 節	速力 節	航海日数 日時	出港時 燃料現量 (噸)	消費燃料 (噸)	燃料積量 (噸)	入港後積載 豫定量 (噸)	記事
白 グラスゴ 至 倫 敦	八五。	一五	二一 二時	三五。	一五。	一〇。	一九五	四。時 右油在積 トシ直油もソレ外 積載ス
自 倫 敦 至 ジブラル ター	一五〇。	一二	五一 二	二九五	二二五	七。	一八。	直油もソレ満載
自 ジブラル ター 至 マルセー ユ	九〇。	一五	二一 一六	二五。	一六。	九。	一六。	直油もソレ満載
自 マルセー ユ 至 マルタ	八〇。	一五	二一 八	二五。	一四。	一一。	一四。	直油もソレ満載
自 マルタ 至 ポートサイ ド	一二〇。	一二	四一 一五	二五。	一八。	七。	二三。	五。時 右油在積 トシ直油もソレ外 積載ス
自 ポートサイ ド 至 アデン	一六〇。	一二	六一。	三〇。	二四。	六。	二六。	七。時 右油在積 トシ直油もソレ外 積載ス
自 アデン 至 ボンベ	一八五。	一二	七一。	三二。	二八。	四。	二一。	直油もソレ満載
自 ボンベ 至 コロンボ	二〇〇。	一二	四一。	二五。	一五五	九	二一五	六。時 右油在積 トシ直油もソレ外 積載ス
自 コロンボ 至 シンガポ ール	二六〇。	一二	六一。	三一。	二四。	七。	一八。	直油もソレ満載

予 出 荷 取
 浦 風 回 航 航 表
 藤田
 調 査 表
 藤田

0770

軍務局 接受
 土 青 井 晋

自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港	自 香 港
145	12	512	250	220	30	220	重油タンク満載		
1250	12	412	250	190	60	190	重油タンク満載		
720	15	214	250	130	120				
1472		5313時	3225	2310	915	2180			

備	考
<p>一、以上ノ燃料消費額ハ左ノ諸項ヨリ概算ス</p> <p>ハ、航海中米補給並飲料用ノ為ニ採取スル清水ハ蒸化器ヲ使用スルモノトシテ燃料消費額ヲ概定シ之ヲ算入ス</p> <p>Displacement 1300 TONS</p> <p>Speed 12 knots</p> <p>S. H. P. 1,500</p> <p>Fuel Consumpt per day 40 tons.</p> <p>Displacement 1300 TONS</p> <p>Speed 15 knots</p> <p>S. H. P. 3,000</p> <p>Fuel Consumpt per day 60 tons</p> <p>一、重油タンク以外ニ石油缶詰トシテ搭載スル重油ハ普通石油ノ如ク缶入トシテ走入りノ木箱ニ入ルモノトス</p> <p>一、天候其他ノ都合依リ航海日数並寄港地ハ燃料在庫量詳ニ範圍ニ於テ変更スルコトアルベシ</p> <p>一、寄港地碇泊中ニ要スル燃料消費額ハ算入セサルモ右ノ算定ニテ豫備アルハ別ニ必要ナキニ認ム</p> <p>一、「グラスゴ」出港時重油タンク満載ニ要スルニ五〇噸ノ重油ハ第八欄ノ入港後搭載ノ定量ノ外ナリトス</p>	

0771